

■コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当り5.71人報告されており、やや増加しています。例年、この時期から患者が増加することから、今後の動向に注意が必要です。

また全国では、ノロウイルスによる集団感染や食中毒が報告されていますので、手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

2. マイコプラズマ肺炎

8人報告されています。全国的に流行し始めていますので、注意が必要です(次頁参照)。

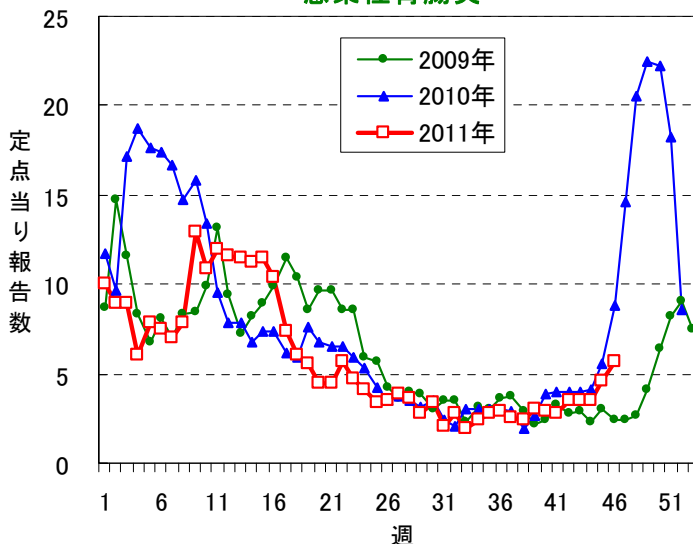
咳が長く続くようであれば、医療機関を受診することをお勧めします。

予防方法としては、手洗い・うがいの励行をすることが大切です。

3. つつが虫病

1件の報告があり(推定感染時期は10月)、今年の累計は2件となりました。

感染性胃腸炎



■定点把握感染症状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年間(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年間(注)	発生記号
インフルエンザ	1	0.03	8.03		ヘルパンギーナ	1	0.04	0.05	
咽頭結膜熱	1	0.04	0.34		流行性耳下腺炎	5	0.21	0.67	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	1.42	1.08	▲	RSウイルス感染症	14	0.58	0.36	
感染性胃腸炎	137	5.71	9.15	◀	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
水痘	32	1.33	1.64	▶	流行性角結膜炎	7	1.00	0.90	
手足口病	17	0.71	0.15	◀	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
伝染性紅斑	8	0.33	0.06		無菌性髄膜炎	-	-	0.09	
突発性発しん	11	0.46	0.54		マイコプラズマ肺炎	8	1.14	0.43	
百日咳	5	0.21	0.10		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1	0.14	-	

急増減 ▲ ▼ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ▲ ▼ 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ▲ ▼ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい → ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	7
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	2	227	男性(40歳代)・1人、女性(40歳代)・1人
4	つつが虫病	1	2	男性(60歳代)
4	ボツリヌス症	1	2	男性(70歳代)
5	梅毒	1	6	男性(30歳代)
5	麻しん	1	14	男性(10歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
報告数	広島市	第42週	6	21	83	24	41	9	9	8	2	6	9	—	2	—	1	5	—
		第43週	2	2	22	85	24	5	6	8	—	12	6	—	5	—	—	7	—
		第44週	1	2	35	85	34	11	13	3	—	1	7	—	3	—	—	9	—
		第45週	6	5	21	111	35	5	15	3	—	9	10	—	8	—	—	5	—
		第46週	1	1	34	137	32	8	11	5	1	5	14	—	7	—	—	8	1
定点当り	広島市	第42週	—	0.25	0.88	3.46	1.00	0.38	0.38	0.33	0.08	0.25	0.38	—	0.25	—	0.14	0.71	—
		第43週	0.05	0.08	0.92	3.54	1.00	0.21	0.25	0.33	—	0.50	0.25	—	0.63	—	—	1.00	—
		第44週	0.03	0.08	1.46	3.54	1.42	0.46	0.54	0.13	—	0.04	0.29	—	0.38	—	—	1.29	—
		第45週	0.16	0.21	0.88	4.63	1.46	0.88	0.21	0.63	—	0.38	0.42	—	1.14	—	—	0.71	—
		第46週	0.03	0.04	1.42	5.71	1.33	0.33	0.46	0.21	0.04	0.21	0.58	—	1.00	—	—	1.14	0.14
全国		第44週	0.12	0.19	1.32	3.32	1.23	0.25	0.57	0.03	0.12	0.67	0.62	0.08	0.53	0.01	0.07	1.15	0.03
		第45週	0.14	0.24	1.42	3.94	1.33	0.93	0.21	0.58	0.03	0.11	0.74	0.63	0.12	0.53	0.02	0.08	1.25

■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。

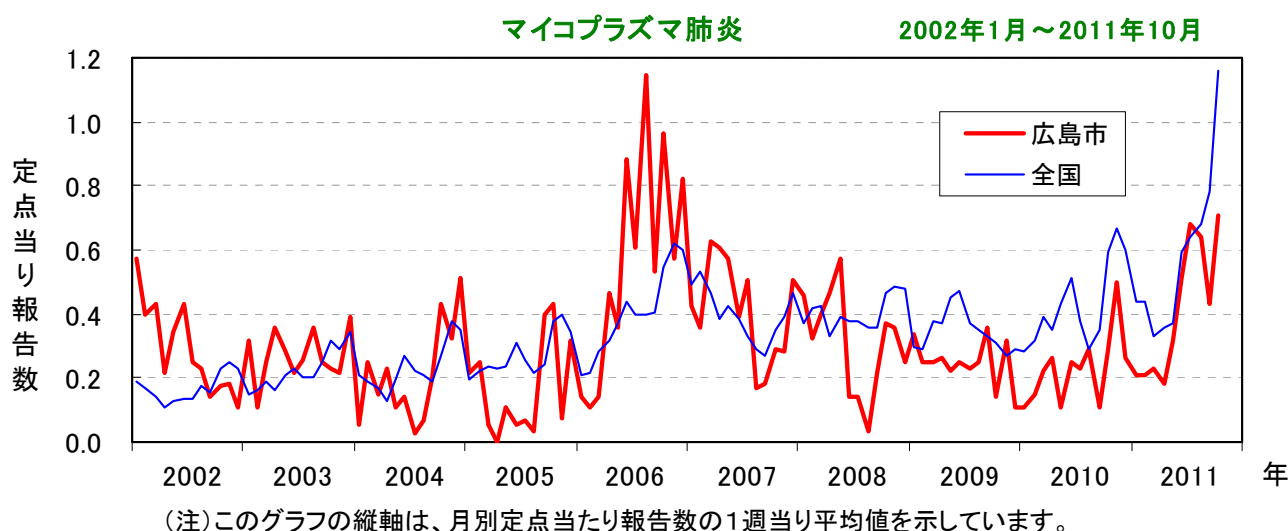
【参考】広島市におけるマイコプラズマ肺炎の発生動向

マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマ・ニューモニエという微生物による感染症で、発熱と長びく咳が特徴です。

患者は年間をとおしてみられますが、秋季から冬季にかけてやや多くなる傾向にあります。

潜伏期間は2～3週間です。症状は発熱、全身倦怠、頭痛などで始まります。その後、3～5日で乾いた咳が出るようになりますが、徐々にひどくなり、熱が下がった後も長く続きます(3～4週間)。肺炎にシては元気で比較的症は軽いといわれていますが、重症肺炎になることもあります。また、まれに無菌性髄膜炎、脳炎、肝炎、すい炎、溶血性貧血、心筋炎などの合併症を引き起こすことがあります。

広島市では、2006年から2007年にかけて流行がありましたが、その後は少ない状態が続いていました。2011年夏頃から全国的に流行し始め、広島市でも増加傾向で推移しています。



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2011年第46週(11月14日～11月20日)